

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100065	事業の開始年月日	平成19年2月1日		
		指定年月日	平成19年2月1日		
法人名	(株)ヘルシーサービス				
事業所名	小規模多機能ステーション　ガーデンコート川崎				
所在地	(　　212-0053　　) 神奈川県川崎市幸区下平間357-2				
サービス種別 定員等	■　小規模多機能型居宅介護		登録定員	25　名	
			通い定員	15　名	
			宿泊定員	5　名	
	□　認知症対応型共同生活介護		定員　計	名	
			ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成25年12月7日	評価結果 市町村受理日		平成26年4月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まだまだ全てに対して至ってはおりませんが、お客様・ご家族様の生活スタイルに応じての支援を心がけるように意識してはおります。今後は、より地域住民の方々との交流も意識して運営していければと思っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年12月20日	評価機関 評価決定日	平成26年3月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇利用者や家族の要望に柔軟に対応
職員は事業所の理念を毎日唱和し、利用者、家族の要望に沿った支援を行っている。急な泊まりや、早めのお迎えにも柔軟に対応している。
◇アンケート調査による利用者、家族の意見の反映
法人本部で「利用者満足度アンケート調査」を実施し、結果は運営推進会議で報告している。職員に笑顔がないなどの意見に対して、職員は意識して利用者に対応するなど、サービスの質の向上に反映している。

【事業所が工夫している点】

◇職員は送迎時のクルマの中や日常の会話から利用者の思いや意向を把握し、言葉にできない方には表情や仕草から把握し、個人日誌「利用状況表」に記載して、情報を共有し個別のケアに取り組んでいる。
◇隣接のグループホームと一緒に毎月行事を行い、もちつきやバーベキューに近隣の方を招き、ボランティアによる音楽会を開催し利用者は楽しんでいる。
◇利用希望者にわかりやすい小規模多機能事業案内のパンフレットを作成している。イラスト入りで生活の拠点を自宅として、「通い」「泊まり」「訪問」の3つのサービス機能を組み合わせた利用の仕方を説明している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能ステーション ガーデンコート川崎
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員の職員にはまだまだ浸透していない。	・施設長が作った理念「施設全体が輪（和）になり 皆が楽しく安心して過ごせる環境を目指そう」を入口に掲示し、職員は毎朝唱和して、利用者の意向に沿った介護を目指している。	
	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加は少しずつ出来てきてはいるがまだまだ交流に域には達していない。	・自治会に入会し、地域のお祭りや防災訓練に、利用者は職員と一緒に参加し、事業所の行事（バーベキュー、納涼祭など）に地域の人を招待している。 ・毎月、バイオリン演奏や歌のボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解は研修等で認識しているようにはしているが、運営推進会議等ではご説明等しているが、地域の方に向けてと言うのはまだまだ至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来る限りは実践していけてはいる。	・運営推進会議は、併設のグループホームと一緒に2か月毎に家族代表、地域包括の職員、民生委員、地域代表者のメンバーで行っている。 ・災害時の地域との相互援助について話し合い、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	訪問や電話等で相談等お聞きしてはいる。	・川崎市や幸区の高齢福祉課には、医療的な問題を問い合わせたり相談で訪問し、連携を取っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解しているとはまだまだ言えないのが現状ではある。	・身体拘束をしないケアについて内部研修を行い、職員は拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・職員は、とっさに「ちょっと待ってください」など対応に不十分な場面があった時は、互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や職員会議、又は日々の申し送り等では実践していくように啓蒙している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や職員会議の議題としては取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様が安心してお過ごしいただけるよう、お客様のご意見やご要望をお聞きしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に数回、お客様アンケートを配布し、ご意見やご要望を出来る限り取り入れるようにしている。又、運営推進会議でもお聞きしている。	・法人本部では、年に数回家族にアンケートを配付し、意見や要望を収集して運営に反映させるよう努めている。 ・事業所では、連絡ノートに記載の欄を設けて意見要望を聞き、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では議題にしている。	・管理者は職員会議や面談時、毎日の申し送り時に職員から意見要望を聞いている。 ・職員からの提案で、歩行不安定な方の入浴介助に対して、一人から二人対応に改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入し、職員の目標設定を個人面談にて聞き、対処している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画作成時に社内研修及び社外研修を設定し、積極的に研修をできる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	講習会や研修会には積極的に参加するよう努めているがまだ少ないのが現状である。小規模連絡会には参加している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様・ご家族様が安心してご利用いただける様に初会面談等にてご不満やご要望を多く聞き安心していただける様に心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記設問15項同様に、お客様・ご家族様が安心してご利用いただける様に初会談等にてご不満やご要望を多く聞き安心していただける様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスがある中の1サービスであることはご説明させていただき、お話を聞きしている際に他のサービスが良い場合にはご相談及びご紹介させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様は人生の大先輩であり尊敬の念をもち、お客様と接するようには啓蒙している。また、安心をご提供すると共に、共に楽しく過ごすことを意識するようには啓蒙している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画に変更があった際などは、その都度ご家族と連絡をとり支援内容の説明及びご家族様の意見を頂戴し、介護計画書に反映させている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小規模ではなかなか厳しいのが現状ではあるが、意識は持っている。	・これまでの馴染みの関係を把握して支援に努めている。 ・家族対応で墓参りに行ったり、馴染みの美容院に行くのを支援している。 ・近くのスーパーに職員と一緒に買い物に出かけている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体的な支援は当然ながら、精神的な支援に重きを置いている。お客様との交流、お客様同士の交流を意識するようには啓蒙している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様及びご家族様にご迷惑がない程度にはお付き合いはさせていただいている。また、ご利用しなくても遊びに来ていただくようお話をさせていただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の朝礼や会議にて職員本位の支援ではなく、お客様本位の支援を徹底するようには啓蒙している。	・送迎時のクルマの中や日常の会話から思いや意向を把握し、言葉にできない方からは表情から思いや意向の把握に努めている。 ・把握した内容は個人日誌「利用者状況報告書」、連絡ノートに記載して情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントを元に、日々のコミュニケーションの中で頂く情報を職員内にて情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の朝礼や会議にて情報共有し、また、モニタリングの実施にて管理者やケアマネージャーからの情報提供している。また、職員間でも情報共有できるように意識を向けるようには啓蒙している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング及びサービス担当者会議及び職員会議にて実施して、現場本位ではなく、ご本人様及びご家族様のご意見・ご要望を重点に作成している。	・ケアマネジャーが本人や家族の意見や要望をアセスメントし、職員間でカンファレンスし、モニタリングして介護計画を作成している。 ・通常見直しは6か月毎、変更がある場合はその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳を保管し日々の日誌を随時ファイリングしており、台帳を基に日々の朝礼や会議にて検討している。また、見直しが必要な際は介護計画の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アセスメント及びモニタリングを定期的実施し、お客様のご意見・ご要望をお聞きし、お客様本位の支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	限りある資源を把握し、アセスメント及びモニタリングを定期的実施し、お客様のご意見・ご要望をお聞きし、お客様が安心してお過ごしいただけるようお客様本位の支援を心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	小規模においてはお客様一人ひとり、なじみのかかりつけ医にて対処なされているので、なかなか厳しいのが現状である。ご家族様にはご相談はさせていただいている。	・利用者のかかりつけ医での受診を支援している。通院は家族対応を基本としているが、急な場合は職員が同行している。 ・薬の変更などについて、家族から報告を受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人記録や日々の状態観察により異常の早期発見・対応を心がけている。 異常時には早急にご家族様にご連絡し適切な医療への受診を啓蒙している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後にお客様がご安心して支援を受けられるように心がけ、関係医療機関とは情報の共有に努めている。また、定期的に面会に行き、状態確認をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化または終末期になりうる状況の際は、ご家族、主治医と密に連携を図り、援助計画を基に情報を共有している。職員間に関しても情報を共有し、ご家族、主治医、職員間においても統一したケアを徹底している。	・現状の設備、職員体制ではターミナルケアは困難であるが、急変時には、医師の指示と家族の協力で利用者に最善の支援を行うことを確認している。 ・終末期のケアについて、内部研修を行い、体験談をもとにケアのあり方を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいている。マニュアルは各フロアーに設置されておりすぐに閲覧可能となっている。なお、緊急連絡先も添付しておりマニュアルにそった対応ができるよう会議等で確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議にて防災説明を行い消火器の位置、避難経路の確認。災害時の動きなどの説明を行っている。また、運営推進会議でもご相談し地域との協力体制を築いている。	・年2回夜間、日中対応の防災訓練を消防署の協力を得て行っている。 ・運営推進会議で話し合い、近隣の協力体制を築いている。	・必要リストを作成し、非常災害用の水、食料品、トイレ、寒さをしのげる物品等の備蓄が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全体が個人情報保護の契約書を交わしている。お客様の立場にたち、声かけはゆったり優しい口調で話しかけ明るく話しかけるよう心掛けている。	・利用者の人権尊重とプライバシー保護について、研修で学び、個人情報に関する書類は、施錠した書庫で管理している。 ・呼びかけは苗字を「さん」付けし、敬語で話しかけるなど、年長者への尊敬の念を持って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、お客様のご意見・ご要望をお聞きし、お客様の以降にできる限り沿った支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位の支援ではなくお客様本位の支援を心がけるよう、日々の申し送りや会議・研修にて啓蒙している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の思考に沿うよう、お客様本位の支援を心がけている。が、実際、小規模のお客様は通いサービスが多いため、ご本人・ご家族様対応になっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	まだまだ至っておりません。が、昨年よりは増えてはきている。 職員会議や研修を活かして積極的に取り入れるようにしている。	・食材は業者委託で、調理は職員が交代で行っているが、年7〜8回の行事食では、利用者と職員が一緒に献立を考え、調理をして楽しんでいる。 ・利用者の希望で近所のラーメン店やレストランに出かけている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社にて栄養面においては管理している。また、お客様に応じて食事形態も考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。また、義歯のある方においても、噛みあわせが大丈夫かの確認をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限り自然排泄を目標にしており、お客様に合わせての排泄誘導をしている。	・排泄チェック表の記載事項を見直し、利用者個々の排泄パターンを把握して、水分摂取を意識して個々に応じた対応、トイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員が出来る範疇の対応はさせていただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	昨年よりは改善傾向ではありますが、まだまだ全てのお客様のご意向に沿っての対応は出来ていないのが現状である。	・通いの利用者は基本的には午前入浴としているが、出来る限り要望にそって支援している。 ・利用者同士で一緒に入浴を楽しむ方もいる。 ・菖蒲湯やゆず湯で季節感を味わえるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	宿泊のお客様においては対処させていただいている。また、通いのお客様においても、状況に応じて対処させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご家族様との連携を図りながら対応させていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	まだまだ至っていないが、昨年よりは増えてはきている。 職員会議や研修を活かして積極的に取り入れるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだまだ至っていないが、昨年よりは増えてはきている。 職員会議や研修を活かして積極的に取り入れるようにしている。	・天候の良い日は、公園を散歩したり、ベランダで外気浴をしている。 また、コンビニなどに、職員と買い物に出かけている。 ・遠出は基本的に、家族の協力をお願いしているが、ドライブで花見に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	まだまだ至っていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には通いのお客様がメインになるため対応できていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り意識するように職員には啓蒙し、対応する事を心がけている。	・共用部分は明るく、換気・室温を職員が管理し、加湿器で湿度調整をして居心地良く過せるように配慮している。 ・壁面には利用者のぬりえや行事の写真が貼られ、クリスマスツリー、サンタが飾られ季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限り意識するように職員には啓蒙し、対応する事を心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り意識するように職員には啓蒙し、対応する事を心がけている。	・自宅が畳の利用者には、床に畳を敷いて対応している。 ・掃除は職員が行い、清潔に居心地良く過せる配慮をしている。 ・泊まりの利用者は、パジャマ・着替え・タオルなどを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り意識するように職員には啓蒙し、対応する事を心がけている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能ステーション
ガーデンコート川崎

作成日 平成26年3月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	常時、水や携帯食料を3日分と防寒具を準備する。また、品目リストも作成し的確な管理体制にする。	職員会議にて必要な携帯食料を選定する。また、選定後は速やかに購入し、品目リストも作成する。	平成26年4月
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。